

研究に関するお知らせ

COVID-19流行期における接触感染・飛沫感染の高度抑制下での川崎病と感染症の 発症比較と川崎病の臨床的特徴の解析：多施設共同観察研究)

福岡赤十字病院では、以下のような研究を行います。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんので、ご安心ください。

■研究目的・方法

川崎病は、日本では1年間に1万5千人くらいのお子さんが発病する、全身の血管炎です。1967年に川崎富作先生が最初に報告してから、たくさんの研究が行われてきましたが未だにはっきりとした原因が分かっていません。最近、われわれや外国のグループは、大気中に原因物質が存在している可能性を見つけ報告しました。

今年はじめから、新型コロナウイルス感染症が流行し、外出を控えたり、手洗いやマスクの着用や人との距離を保つようになったことで、インフルエンザやRSウイルス感染など多くの感染症を発症するお子さんが減っています。川崎病を発病するお子さんも同じように、減っているのか減っていないのかを調べることで、川崎病の発症に接触や飛沫で暴露されるような物質が関係しているのかを明らかにしたいと考えています。

この研究は、みなさまが当院に入院していた時のカルテの情報を用いて行います。この研究のために、あらためて受診していただいたり、血液検査が必要になったりすることはありません。

■研究期間

承認日～西暦2020年12月31日

■研究の対象となる方

2017年～2020年の各年の2月～5月に当院に川崎病または感染症のために入院された16歳未満の方

■ご協力頂く内容

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報(年齢、性別、既往歴、血液検査結果、抗原検査結果、心臓超音波検査結果、治療方法等)を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。)

■外部への試料・情報の提供

研究データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。匿名化対応表は、福岡赤十字病院では当院の医療情報室で保管・管理します。

■研究組織

〔研究代表者〕

福岡市立こども病院 院長 原 寿郎

〔研究分担機関・研究責任者〕

福岡市立こども病院 川崎病センター	水野由美
九州大学病院 小児科	大賀正一
九州大学病院 ARO 次世代医療センター	岸本淳司
国立病院機構九州医療センター 小児科	佐藤和夫
福岡赤十字病院 小児科	波多江健
国家公務員共済組合浜の町病院 小児科	武本環美
国立病院機構福岡東医療センター 小児科	石崎義人

■利益相反について

本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等

あなたのご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■当院の研究責任者：

福岡赤十字病院 小児科 小野山

■本研究全体の研究代表者：

福岡市立病院機構福岡市立こども病院 院長 原 寿郎

■お問い合わせ先

福岡赤十字病院

住所：福岡市南区大楠5-1-1 電話：092-521-1211（代表）

担当者：小児科 小野山さかの

■掲示場所・交付場所

・病院ホームページ、外来待合室へ掲示しています。

また、本情報公開文書は外来Eブロックの受付に申し出くだされば、コピーをお渡しすることができます。